

がつ ど い り ん ぽ か ん
12月 土居隣保館カレンダー

にち 日	げつ 月	か 火	すい 水	もく 木	きん 金	ど 土
1 しこくちゅうおうし 四国中央市 じんげん 人権のつど い 13:00～	2	3	4	5 うめがまちしゅうかい 梅ヶ町集会 しょ ちゃかい 所お茶会 14:00～	6	7
8	9	10	11	12 ｽｰｲｱﾋﾞｯｸ 10:00～	13	14 なわきょうしつ しめ縄教室 9:00～
15	16 ｸﾗﾌﾄ ﾊﾝﾄﾞ教室 10:00～	17	18	19	20 じんげんざだんかい 人権座談会 18:30～	21 もっこうきょうしつ 木工教室 10:00～
22	23	24	25	26 ｽｰｲｱﾋﾞｯｸ 10:00～	27	28
29	30	31				

ど い り ん ぽ か ん だ よ
土居隣保館便り

れいわ ねん
令和6年

12 がつごう
月号

はっこう ど い り ん ぽ か ん
発行:土居隣保館 〒799-0703 土居町藤原5-400-3 TEL/FAX 28-6356

「あなたに会えてよかった」を開催しています。

12月上旬から2月中頃まで土居隣保館で「あなたに会えてよかった」を開催しています。「あなたに会えてよかった」では、クイズをしたり、お母さんのお腹に赤ちゃんが誕生して、生まれるまでの様子について紙芝居を見たりします。その後、段ボールで作られたお母さんのお腹の中に入り、赤ちゃんが大きくなっていく様子を見ます。その様子から、自分たちはお母さんのお腹の中で大切に育てられたことに気づいて欲しいと思います。また、この活動では、子どもが生まれたときに周りが喜ぶ様子を感じたり、生まれたばかりの赤ちゃんの人形に実際に触れたりします。最後に、子どもが生まれたときの家族の喜びや子どもに対する願いを紹介して、自分の命の大切さ・相手の命の大切さを感じてもらえたら嬉しいです。この活動を通して、赤ちゃんが生まれたときの家族の喜びと願い「あなたに会えてよかった」という家族の思いに気づいて欲しいと思います。



The Best Paper City
感謝、そして未来へ

「あなたに会えてよかった」開催します

日時: 12月3日～2月中旬

場所: 土居隣保館 9:00～16:00

予約: 電話予約をお願いします

問い合わせ: 土居隣保館 0896-28-6356 (8時30分～17時15分)



「しめ縄教室」開催します。

日時: 12月14日(土) 9:00～12:00

場所: 土居隣保館

講師: 鈴木 富雄さん 参加費: 無料

問い合わせ: 土居隣保館 0896-28-6356 (8時30分～17時15分)



令和6年度 四国中央市学校人権・同和教育研究大会

11月1日（金）に四国中央市人権・同和教育研究大会が市内6校で開催されました。

私は、長津小学校の高学年の授業に参加させていただきました。

まず、焦点授業として6年生の「山の粥」の授業を参観しました。その後、焦点

授業の研究協議を行いました。実践報告では、豊岡小学校の取組について報告がありました。

豊岡小学校では、地域のすべての人のために尽くした「今城宇兵衛」の生き方は人権

尊重の基盤であることを再確認し、その精神を受け継いだ取組を通して、「行くのが楽しい
みな学校」を目指し、取り組んでいるという発表でした。

「山の粥」は江戸時代の終わりの頃、2年続いた水不足のため農民の村では食料が不足

し、多くの人が餓死していました。そんな中、差別されていた平介の村の人が山の粥を

振舞うことで、差別していた農民の命を助けるという話です。厳しい差別の中でも、

人間としての温かい心や人としての誇りを忘れず、当たり前のことを当たり前ででき

る村人たちの生き方が描かれています。

授業では、「あなたが村人だったら農民を助けますか。」という質問に対し、自分だっ

たらという立場で考え、自分の問題として捉えることができていました。「助ける」と答

えた児童が4人、「助けない」と答えた児童は18人でした。「助ける」理由として、「同

じ人間だから助ける。」「助けないと後悔する。」「助けてくれなかったと差別されるかもし

れないから助ける。」などの意見がありました。

「助けない」理由として、「普段から差別されてきたのに助けたくない。」「いつも差別

されているのに困った時だけ助けるのは嫌だ。」という意見が多かったです。

続いて、「村人はなぜ農民を助けたのか」という質問でした。「差別されるのが怖いか

ら。」「助けたら自分が後悔しないから。」「差別を無くしたいから。」「困ったときには助

け合いたいと思ったから。」「農民の中の子ども達差別しない人になって欲しいと思

ったから。」などの意見が出ました。

子ども達は最新の機器（クロームブック）を使用しながら、平介の村の人の立場に立

って、自分のこととして捉えた、深い学びをしていると感じました。

私たちが忘れてはいけないことは、差別を無くすために行動しないといけないのは、

差別される側ではないということだと思います。差別する人がいるから差別があります。

差別を無くすために行動しないといけないのは差別する側、ここでは農民です。

子ども達が間違がった学びにならないよう、今回の長津小学校の授業のように正し

く学習することが重要であると感じました。

この研修に参加することで、たくさんのことを学ぶことができました。差別される

側の村人が差別する側の農民を助けたのはなぜか？「農民は武士によって作られた

差別をさせられていた。」「村人は農民が差別させられていることに気付いていた。」だ

から、手紙に人目につかないように「月のない深夜に来て下さい」と書いたのではない

か。命の大切さを知っているから困っている人を助けるという、当たり前のことを当

たり前にできたのではないか。という意見もありました。私はこの意見に一番納得さ

せられました。皆さんはどう思われますか？ 主事 高橋 建太郎

